

飯能労山 結城太郎

今回のセルフレスキュー講習会で得られたものはセルフレスキュー技術にのみならず、セルフレスキューの困難さと事故を起こさぬための予防措置の重要性です。

10月18日の午後1時から高鼻コミュニティーセンターに受講生8名、救助隊5名が集まり、講習会が始まりました。まずは講義。講義で強調されたのは次の2点です。まず第一に事故を起こさぬための事前準備です。

◎体力・体調の管理

◎装備・使用方法の習熟

◎山の知識・経験の向上

◎周到な計画の作成

これらは登山をする者にとって当たり前のことですが、事故のほとんどがこの原則をお座なりにしたことが原因で発生していると思えます。

第二に登山は登山者の自己責任で行うものであり、事故が発生した場合でも、警察・消防に頼る前に当事者ができる限りの努力をすべきであり、そのためにはセルフレスキューの技術は不可欠という点です。

講義の後は室内での実習です。ロープワークや明日のフィールド実習で行う3:1引き上げ法の設置法を、和気藹々ではあるが、手を抜くと救助隊からの叱責が飛ぶという少し緊張感の漂う中、実習いたしました。

翌日は秋晴れ、絶好の登山日和です。こんな日に山に登れないなんてと少し悔しい気持ちを心に秘めながら、実習場となる日和田山に向かいます。午前中は登山口でストック、リュック、カップなど身近な登山用品を使った搬送方法の実習。ちょっとした工夫で怪我人を安全に搬送できること、実際にやってみてないと（知識だけでは）だめなことを実感しました。午後からは実際の斜面を使用した転落者の引き上げ訓練です。昨日、3:1引き上げ法のセッティングは室内で習いましたので、形はすぐにできましたが、実際に人を引き上げてみると、スリングの長さや折り返しの方向、支点の位置等、多くの欠陥が見つかります。全員がリーダーを終了するまで繰り返し練習すると、最後にはスムーズな救出ができるようになりました。

今回の講習では転落者の引き上げや怪我人の搬送方法等、セルフレスキューに関する基本的な技術を学ぶことができ、大変有意義な2日間となりました。しかし、これらの技術を安全かつ確実に活用できるようにするには、斜面への対応（どのくらいの斜面まで搬送可能か、どのような補助が必要かなど）等、まだまだ実践的な訓練が更に必要と思われました。

引き上げ訓練では、今回、救助者7人、滑落者は自力で坂を登れるという設定でも、急斜面になると引き上げにかなりの労力を要しました。また、ザックやストックを使うことにより、より安全で楽に怪我人を搬送できますが、急斜面や長距離の搬送ではおそらく困難なことでしょう。実際にセルフレスキューの訓練を体験してみると、登山者が自分たちでできることは限られると実感できます。セルフレスキューの技術を身に着けた上で、「まずは事故を起こさぬこと」を心に刻み、山へ出かけたいたいものです。

